

茶新品種「やまなみ」について

鮫島 齊・米元孝一・井上 繁*・黒木史郎**
(宮崎県総合農業試験場茶業支場)

SAMEJIMA, H., YONEMOTO, T., INOUE, S. and KUROKI, S.
On the New Variety of Tea Plant "Yamanami"

1. まえがき

かまいり茶用品種として既に「たかちほ」、「いずみ」が登録され、主として九州地方に普及奨励されている。これらの品種は中早生あるいは早生種であつて、摘採期の異なる品種を組み合わせて摘採期間を延長する場合には、適当な中生種がなく、在来種がこの役割を果たしている状態である。このときに当たり、中生種で多収なかまいり茶用品種「やまなみ」を育成することができたので、その育成経過ならびに特性の概要を述べて参考に供する。

本品種の育成に直接従事した職員は、九州農試茶育種研究室関係者(現農林省茶試)および筆者等である。

2. 来歴ならびに育成経過

この品種は昭和28年九州農試において、中国湖北省産茶園の実生第2代の茶園中より1次選抜された個体由来するもので、「Ch5342」の個体番号が付された。昭和33年に2次選抜樹に決定し、引き続き翌34年より「Ch5342」の系統名で系統比較試験が実施された。

昭和35年九州農試茶業部が枕崎に新設され、紅茶用品種の育成を行なうことになつたので、本系統を宮崎県農試川南分場(現同総合農試茶業支場)が引き継ぎ、同年より改めて系統比較試験を実施してきた。昭和40年に茶農林27号として登録され「やまなみ」と命名された。

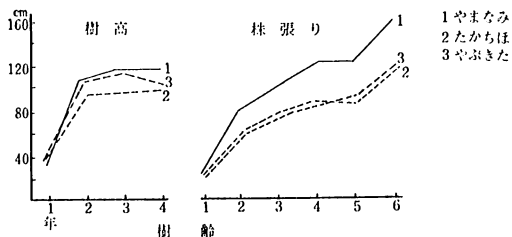
3. 特性の概要

この品種の特性、収量調査成績ならびに品質審査の結果は第1～3表、第1図に示すとおりである。

a. 形態的特性。樹姿はやや直立型で、枝条はよく生育し株張りが大きい。成葉は中型のだ円形で、葉縁の波曲、内折度および反転度が小さく、葉面は緑色で光沢に富みなめらかである。摘採期における芽長はやや長く、幼葉はだ円形で光沢のある淡緑色である。

b. 生態的特性。ややおそい中生種で、発芽期は「たかちほ」や「いずみ」に比して3～4日おそく、摘採適期はこれらの品種あるいは「やぶきた」より3～7日おそい。樹勢はきわめて強く、ことに幼木期の生育はおう盛であり、初期からきわめて多収を示して収量性が安定しており、芽数型に近い。耐寒性が強くて冬季の落葉は少なく、また、耐病性もあり特記すべき病害の発生は認められない。

第1図 生育の推移



さし木の生存率は高く当年の生育は普通であるが、発根のおそい個体があつて生育はいく分不均整となる傾向がある。しかし、2年目には枝条の生育が良く良苗となる。

c. 品質的特性。かまいり茶として、葉質が柔らかいため縮りがよく形状は良好であり、色沢も良い。香氣は中国種風の温かな清涼香をもち、滋味は強いが水色

第1表 一般的特性

品種名	樹姿	樹勢	発芽期		摘採期		耐寒性	耐病性	再生力	結実性	成葉			幼葉(1番茶芽)		
			月	日	月	日					形	大きさ	色	形	大きさ	色
やまなみ (標)	やや直立	極強	4. 7	5. 9	強	強	強	強	大	小	だ円	中	緑	だ円	中	淡緑
たかちほ (比)	直立	強	4. 4	5. 6	強	強	強	強	大	中	だ円	中	濃緑	だ円	やや小	淡緑
やぶきた (比)	直立	強	4. 6	5. 6	中	弱(炭疽病)	弱	弱(網創病)	大	小	長だ円	中	濃緑	長だ円	中	淡緑
いずみ (比)	直立	極強	4. 3	5. 2	強	強	強	強	大	小	だ円	中	濃緑	だ円	中	淡緑

(注) 発芽期は4カ年、摘採期は3カ年平均。

*、現宮崎県総合農試栽培部勤務

**、現宮崎県東臼杵西部農業改良普及所係務

はややうすい。総合的な品質は「たかちほ」に比し1～2番茶は同等，3番茶はわずかに劣る。製品のタンニン含量は「たかちほ」に比してやや高い。

4. 適地および栽培上の注意点

関係県における地方適否試験の結果は育成地における成績と同傾向であり，したがって適応範囲はかなり広く，九州地方の平坦部および中山間地の全域に適するものと思われる。なお，昭和40年より鹿児島，熊本および宮崎県において奨励品種に採用された。

栽培上の注意点として，苗圃においては一般耕種法に準じて管理を行なえばよいが，さし木当年の生育はやや不均整で成苗率がいく分低いので多目に育苗しなければならぬ。本圃においては定植2～3年目より急激に生長して株張りが大きくなるので，栽植をあまり密にしないこと，樹姿はやや直立型であるから早期成園化には初回剪枝をやや強度にすることが大切である。また，年間生長量が大きいので，多肥にすること

とは品質向上の面ともあわせて必要であろう。経営上，摘採期間延長のために，「やまなみ」を早生あるいは中早生品種，たとえば「いずみ」，「たかちほ」等と適宜組み合わせれば，その特性を大きく生かすことができる。

第2表 収 葉 量

品 種 名	10 a 当たり収葉量(kg)				同対標準比率(%)			
	昭37	昭38	昭39	昭40	昭37	昭38	昭39	昭40
やまなみ	180	532	1,213	1,583	164	167	154	179
(標)たかちほ	110	318	786	882	100	100	100	100
(比)やぶきた	117	264	703	944	106	83	89	107
(比)いずみ*	86	305	832	866	90	93	125	98
(摘採茶期)	1番茶	1.2番茶	1～3番茶	1～3番茶				

(注) 昭和35年3月定植，*印は供試ほ場が異なる。

第3表 製茶品質審査評点(1番茶，3カ年平均)

品 種 名	形状	色沢	香気	水色	滋味	評点合計
やまなみ	17.3	17.4	17.9	15.5	17.2	85.3
(標)たかちほ	15.6	16.3	16.9	17.7	17.3	83.8
(比)いずみ	16.5	16.1	17.7	17.0	18.0	85.3